

なぜ、私を裏切ったのだ？

マルケ王の嘆きへの答は？

2022/08/21



ワーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》には、多くの謎があります。その一つに、「なぜ、トリスタンは、父とも恃(たの)むマルケ王を裏切ったのか？」があります。ある夜、家臣で甥のメロートの画策でマルケ王は夜の狩りを決行します。トリスタンとイゾルデはこれを好機と思って、今宵も密会を試みます。突然、マルケ王たちが二人の前に現れます。夜の狩りの獲物はトリスタンとイゾルデだったのです。

マルケ王の問い

不義密通の現場を抑えたマルケ王は嘆き悲しみます。そして、トリスタンを詰(なじ)ります。

マルケ王

なぜだ？ いかなる神も救うことのできないこのような地獄に、わしをなぜ突き落とし
たのか？ どうにも償い得ぬこの恥辱を、なぜ、わしに与えたのか？
はかり知れない深さの神祕の淵を、世にさらしたのは、だれなのか？

それに対してトリスタンは、次のように答えます。

トリスタン

王さま、それには答えられません。

お尋ねのことは、決してだれも知ることはできないのです。

このトリスタンの言い分は、「私には分かっているけれども、私以外にはだれも知ることが出来ないでしょう。でも、私からはいえません」というのです。

愛の妙薬が原因

このとき、トリスタンは、実は「愛の妙薬」のことをいっているのです。「二人がこうして愛し合っているのも、媚薬を飲んだからだ」といっているのです。それが本当なのは、このとき、オーケストラが、おなじみの【トリスタンとイゾルデの愛の動機】を密かに奏(かな)でるからです。



この有名な示導動機は、この楽劇が始まるときの「前奏曲」で奏でられます。でも、実際に劇のなかで初めて登場するのは、トリスタンとイゾルデが「愛の妙薬」を飲んだ直ぐあとです。二人が本当に愛し合うようになったのは、この妙薬のせいなのです。そのことを、トリスタンも、ワーグナーも、この示導動機を奏でることで、マルケ王の質問の答として答えているのです。マルケ王をのぞく他の人たち、すなわち、多くの観衆に答を教えているのです。

イゾルデの美貌と魅力が原因

でも、実は、二人が愛し合うもう一つの原因がありました。これにつづく場面で、メロートがトリスタンに刃向かうと、トリスタンはメロートに向かっていきます。

トリスタン

イゾルデの眼差しはこの男をも盲目にしたのだ。

嫉妬のあまり、この私を裏切り、王をも裏切ったのだ!

また、その前にマルケ王もいます。王もまた、イゾルデに夢中になったのです。

マルケ王

このこよなく素晴らしい女性の姿を見たならば、だれもが、我がものとしたわしを称(たた)えずにいられなかったのだ。

気品と優美さをそなえたこの女性は、わしに慰めを与えてくれた。

だれでも、イゾルデを一目見たら彼女の虜(とりこ)になります。マルケ王も、メロートも、また、トリスタン本人もそうです。

トリスタンが不義を働いた元々の遠因は、実は、イゾルデの美貌と魅力にあったのだ — とワーグナーは言っているのです。

